

# 平成30年度学校自己評価システムシート (熊谷市立吉岡中学校)

目指す学校像	確かな学力を身に付け 心豊かなたくましい生徒の育成
--------	---------------------------

重点目標	1 よく学ぶ生徒の育成 2 心豊かな生徒の育成 3 健康でたくましい生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 5 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	熊谷市の教育施策である学力日本一を目指すため、基礎基本の定着・授業力の向上・言語活動の充実が課題である。	1 基礎・基本の徹底 2 授業規律の徹底 3 ねらいを明確にした授業の実践 4 言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉岡検定の実施</li> <li>英語ラウンドシステムの実施</li> <li>学習習慣の確立</li> <li>くまなびスクール実施</li> <li>学習規律「よしおか」の実施</li> <li>授業開始時刻の厳守</li> <li>毎時間のねらいの提示</li> <li>導入・発問・学習形態の工夫</li> <li>少人数指導の実施</li> <li>主体的・対話的で深い学び</li> <li>体験活動の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年98%以上の実施</li> <li>全学年・全教科で実践</li> <li>家庭との連携</li> <li>参加者の出席率80%以上</li> <li>全教科で実施</li> <li>チャイムであいさつ100%</li> <li>提示率100%</li> <li>生徒満足度80%以上</li> <li>実施率80%以上</li> <li>毎時間取り入れる。</li> <li>各教科5時間の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年97%、2年98%、3年99%</li> <li>概ね良好である。</li> <li>1年83%、2年85%、3年83%</li> <li>46%であった。</li> <li>職員A評定63%、B評定37%</li> <li>100%である。</li> <li>職員A評定69%、B評定31%</li> <li>1年91%、2年88%、3年92%</li> <li>2年数学59%、3年数学76%</li> <li>職員A評定44%、B評定56%</li> <li>概ね良好である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラウンドシステムに関する研修を実施、さらに理解を深め学力を伸ばしていく。</li> <li>生徒のニーズにあった学習課題の提供と学習形態の実施、担任から学力に課題のある生徒に積極的参加を促すことによりくまなびスクールへの出席率の向上を図る。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを向上させるため、教師の説明時間を減らし、生徒の活動時間を増やしていく。</li> <li>授業研究を年3回実施し、指導方法の改善を図る。</li> </ul>
2	1つの小学校から進学してくるため友人関係が固定化するとともに、コミュニケーションの能力が低く細かなトラブルが多い。幅広い教育により、人間関係を充実させる必要がある。	1 時を守り、場を清め、礼を正す 2 スキル教育の充実 3 命の教育・心の教育の推進 4 いじめ撲滅運動の展開 5 インクルーシブ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会時の無言整列</li> <li>無言清掃</li> <li>コミュニケーション能力の向上</li> <li>道徳的価値を深める授業実践</li> <li>人権旬間の実施</li> <li>元気なあいさつと返事</li> <li>きめ細やかな日常観察と教育相談の実施</li> <li>定期的なアンケートの実施</li> <li>交流学級・共同学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%の実施</li> <li>80%の実施</li> <li>各学年3回の実施</li> <li>道徳実施35時間以上</li> <li>年2回の実施</li> <li>100%の実施</li> <li>教育相談年2回実施</li> <li>年5回の実施</li> <li>保護者の要望に添える実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年95%、2年91%、3年97%</li> <li>1年88%、2年83%、3年80%</li> <li>1年5回、2年3回、3年1回</li> <li>全学年で実施できた。</li> <li>年2回実施できた。</li> <li>1年98%、2年93%、3年95%</li> <li>1、2年各2回実施 3年3回以上実施した。</li> <li>年11回以上実施できた。</li> <li>保護者との面接により、要望を取り入れることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の教科化へ向け、年3回の研修を実施していく。</li> <li>指名されたときの返事が小さくあいさつも自主的にできないため、大人が手本となって率先垂範していく。</li> <li>インクルーシブ教育推進のため保護者の要望に対して、さらに丁寧な対応をする。</li> </ul>
3	埼玉県体力向上優良校として5年連続で表彰されるなど、基礎的な体力は身につけている。一方で、寝る時間や起きる時間が遅く、基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒も見られる。体力のさらなる向上を目指していきたい。	1 体力向上の推進 2 健康教育と食育の充実 3 主体的な部活動への取組 4 安全行動の習慣化と事故防止の徹底 5 地震・竜巻等の自然災害や不審者対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題をふまえた授業の実施</li> <li>生活習慣の改善</li> <li>家族と一緒に朝ご飯の奨励</li> <li>目標設定と計画的な取組</li> <li>自らの命は自ら守る意識</li> <li>緊急地震速報の活用</li> <li>対応マニュアルの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト総合評価95%以上(A+B+C)</li> <li>HQCシート年2回実施</li> <li>朝ご飯摂取率 98%以上</li> <li>計画表のホームページへの掲載</li> <li>避難訓練の迅速な行動</li> <li>生徒の交通事故0</li> <li>小中合同避難訓練(引き渡し訓練)実施 年1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>94%と目標に届かなかった。</li> <li>1回目3週間、2回目3週間実施</li> <li>9月 85%、1月 91%と向上したが目標に届かなかった。</li> <li>10月より90%達成したが早目の掲載をしたい。</li> <li>すべて3分以内に避難できた。</li> <li>交通事故0件であった。</li> <li>9月に計画通り実施できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力面においては、全体としては、投力、瞬発力に課題が見られ、1・2年女子に持久力の課題が見られるため、課題を意識したトレーニングを導入する。</li> <li>朝食の大切さを各種たよりに、面談等で呼びかけるとともに、HQCシートを家庭と共有して取り組む。</li> </ul>

学校関係者評価
実施日 平成31年3月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>一方的でなく、対話的な指導をして、個々の能力を引き出していく。しっかりした考えをもち発言できるような指導が大切である。</li> <li>学習習慣の確立、学習規律等については、小学校から地域・保護者との連携や、家庭への協力・啓発を行っていくことが大切である。小中が連携をしていきたい。</li> <li>学力を保証することは、とても大切で、ひいては不登校予防の大事な観点になっていると思われる。また、学校評価の生徒満足度が高いのは、職員の努力によるものである。引き続き指導の充実を図ってほしい。</li> <li>インクルーシブ教育はとても大切な観点だと思う。生徒一人一人の人格を大切に豊かな心の育成を期待している。</li> <li>「非認知能力」を育むためには、どのような取組ができるか模索し、必要に応じて地域と連携しながら、実践してほしい。</li> <li>吉岡地区以外との交流をもてる機会があれば積極的に交流してほしい。</li> <li>道徳教育(教育と自然)を通じて心のIQ向上を目指してほしい。</li> <li>「ふくしの授業・高齢者との交流・キャンドルメッセージ」などを通して心豊かな人に育ってほしい。</li> <li>小規模校のため、やりたい部活動に入部できない現状があるようだが、うまく励ましエネルギーを活動に向けさせてほしい。</li> <li>新体力テストにおける課題は何か。小学校との結果のつきあわせを行い、体育部で取り入れるべき、重点的な取組を考えてほしい。</li> <li>今年は、RWCがあるので、「見る」スポーツから、体を動かすことの楽しさが伝わるといいと思う。それにより、体力向上を推進し、引き続き体力優良校として頑張りたい。</li> <li>HQCを年2回行い、基本的な生活習慣を見直すのはよいことだと思う。自分の生活の細かな部分を見直し、改善し、家庭を巻きこんで実行できるようになればいいと思う。</li> </ul>